

ステップ	OODAのフェーズ	主な活動/観点	活用ポイント	備考 [1]
1	Observe(観察)	・現状や市場動向、競合動向、顧客ニーズなどのデータ収集 ・定量データ(売上、問い合わせ件数など)と定性情報(現場の声、顧客のフィードバック)を組み合わせる ・必要なら現地/現場に直接足を運ぶ	・変化の兆しを迅速に捉える ・過去の固定観念にとらわれず、新しい情報にもオープンになる ・仮説を立てる前段階の“事実集め”が肝	例:販売データのグラフ化、顧客アンケート実施、店舗視察など 記録:情報源・確認時刻・対象範囲。観察した事実と未確認の情報を区別する。
2	Orient(状況判断)	・Observeで得た情報をもとに、自社が置かれている立場や強み/弱みを整理 ・市場や競合の動きに合わせた戦略仮説を立案 ・組織内のリソース(人材、コスト、設備)と突き合わせる	・情報を取捨選択し、最適な方向性や方針を描く段階 ・定量/定性データを踏まえた分析力が問われる ・属人的な判断に偏らないようチームで議論	例:SWOT分析、部署間ミーティング、社内外ステークホルダーの意見収集 記録:判断の前提・別の解釈・制約。前提が崩れたら観察・状況判断へ戻る。
3	Decide(決定)	・実施するアクション案を複数検討し、最終的な方針/施策を決定 ・優先度付けと具体的な担当者/リソース配分を確定 ・スケジュールやKPIなどの測定指標を設定	・現場がすぐに動けるように、方針を明確化 ・大掛かりなプロジェクトの場合、段階的(スモールスタート)に導入を決める ・経営層や管理職のコミットを得ることが重要	例:新商品テスト販売決定、RPAのパイロット運用、システム刷新のGo/No-Go判断 記録:決定者・実行者・許可範囲・中止条件・確認時刻。必要な承認は省略しない。
4	Act(実行)	・決定した施策を素早く実行に移す ・進捗をモニタリングしながら状況が変われば即修正 ・再度、Observe(観察)へ戻ってループを回す	・実行後のフィードバックを素早く取り入れることがOODAの特色 ・小さな失敗は早めに発見し、対応策を打つ ・単発ではなく繰り返し運用する前提で組織体制を整える	例:テスト運用から出た不具合修正、顧客への追加ヒアリング、臨機応変な施策変更 記録:実施結果・副作用・追加情報。変化を見て観察・状況判断へ戻り、有効な対応は標準化へ渡す。

テンプレートURL: <https://docs.google.com/spreadsheets/d/1C514z3Qnfy2tLhj0eNBAGP7zpxhcQ-UJ-1EbaR7qfY/edit?gid=543222585#gid=543222585>

項目の説明

1. **ステップ**
 - OODAを進める大まかなプロセス順を示します(1→2→3→4)。必要に応じて行を追加し、より詳細なタスクを盛り込めます。
2. **OODAのフェーズ**
 - 「Observe(観察)」「Orient(状況判断)」「Decide(決定)」「Act(実行)」の4つに区分し、それぞれの活動内容を整理します。
3. **主な活動/観点**
 - 該当フェーズで何を行うか、どのような切り口で考えるかを具体例とともに示します。
4. **活用ポイント**
 - そのフェーズを成功させるための留意点やコツをまとめています。組織で実施する際に意識するとスムーズです。
5. **備考**
 - 具体的な事例や関連タスクなど補足情報を記載します。自社の業種・部署に合わせて自由にカスタマイズしてください。

活用方法

1. **自社業務に応じて編集・追記**
 - 組織の状況に合わせ、行や列を追加・削除し、より詳細なタスク内容や担当者名、具体的な期限を記入するなどカスタマイズしてください。
2. **プロジェクトごとに使い分け**
 - 環境変化が速く、短期的に結果を出したいプロジェクトにはOODAを適用しやすいと言えます。大規模な改革や、先に計画をじっくり固めたい場合はPDCAを選択するなど、状況に応じて使い分けも可能です。
3. **実行とフィードバックを繰り返す**
 - OODAの特徴である「Act→Observeへすぐ戻る」サイクルを繰り返し、柔軟に方針修正しながら改善を進めてください。

このガイドをもとに、**OODAループを導入して素早い意思決定と改善サイクルを回すための下地を整える**ことができます。特に変化の激しい市場や、顧客ニーズが多様化しやすいサービス分野を扱う中小企業では、**観察(Observe)→状況判断(Orient)→即決(Decide)→実行(Act)→また観察へ**という流れを回すことで、**外部環境に柔軟に対応できる組織文化**が育まれます。

[1] 既存の活動・観点・活用ポイントと例を保持し、判断と確認の記録欄を補足。順番を固定せず追加情報を観察・状況判断に戻す。